

## 見学お役立ちシート

名称	チブサン古墳・オブサン古墳
住所	〒861-0554 熊本県山鹿市城字 西福寺
電話番号	【問い合わせ・申し込みは山鹿市立博物館 0968-43-1145】 9:00～17:00 (年末年始・月曜など休館)
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/eDjmufMVR6mEqCHL8">https://goo.gl/maps/eDjmufMVR6mEqCHL8</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	チブサン古墳内部見学 (1日2回、午前10時、午後2時) ※感染症対策のため変更する場合があります。 所要時間：チブサン古墳パネル説明 約10分+石室内見学時間一名につき2～3分 チブサン古墳は石室内の保護施設まで狭い階段があるため、出入りに時間がかかります。 オブサン古墳 (見学自由) 所要時間15分、オブサン古墳からチブサン古墳までの距離300m (ボランティアガイドは事前予約が必要です。)
料金	チブサン古墳内部見学 個人(14名以下)一般・大学生100円 高校生以下50円 団体(15名以上)一般・大学生 60円 高校生以下30円
駐車場・トイレ	チブサン古墳 (駐車場あり、トイレなし) 駐車場はバス不可 オブサン古墳 (駐車場あり、トイレあり)
時代	原始 (弥生・古墳) 古墳時代後期 (6世紀)
参考URL	<a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264125462844/">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264125462844/</a>
出典	『山鹿市の指定文化財』12～13頁 『山鹿のてびき』30頁
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定史跡。(大正11年指定)</li> <li>・チブサン古墳は菊池川の支流岩野川に臨む平小城台地の東端、標高60mの小高い丘にあります。周辺1kmの範囲には、オブサン古墳、馬塚古墳、付城横穴群、臼塚、金屋塚古墳、鍋田横穴群、弁慶ヶ穴古墳などが点在しています。</li> <li>・チブサン古墳は、今から約1500年前(六世紀前半)に造られたとされる前方後円墳です。</li> </ul> <p>築造当初は、周囲に溝を巡らし、墳丘には石を葺き、埴輪や石製装飾(石人)を置いていたようです。古墳内部は横から入る石室があり、奥の部屋(玄室)には遺体を安置する石屋形が置かれています。その正面と左壁には、円や三角や菱形の連続した幾何学模様が、右壁には、両手と両足を上げた人物の装飾などが描かれています。装飾は、赤・白・黒の三色が使われ、色あせることなく、現在までその鮮やかさが残されています。</p> <p>正面の二つの円文から「乳房さん」と呼ばれ、古くから「お乳の神様」として信仰の対象となっていました。それがチブサンという名前の由来とも伝えられています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チブサン古墳は石室内部の壁画保存状態がとても良好で、日本の装飾古墳を代表する古墳の一つとされます。壁画保存のため公開を制限しています。石室の精密なレプリカが熊本県立装飾古墳館に展示してあります。</li> <li>・オブサン古墳は、六世紀後半頃に造られたとされる円墳です。墳丘は、石室に向う道の両脇が突き出るとい、特異な形をしています。</li> <li>・熊本県の「風土記の丘」構想をもとに、典型的で雄大な横穴式石室として公開できるよう整備を進めることとし、昭和59・60年に熊本県教育委員会が発掘調査を実施した。発掘調査の結果、直径2.2メートルで幅4メートル前後の周溝がめぐることが判明しました。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

名称	岩原古墳群（いわばるこふんぐん）
住所	〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原
電話番号	【問い合わせは熊本県立装飾古墳館 0968-36-2151】 9:30～17:15（年末年始・月曜など休館）
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/s5ukgN3zEPa7vwwC6">https://goo.gl/maps/s5ukgN3zEPa7vwwC6</a> 
営業時間 見学所要時間 （目安）	所要時間：装飾古墳館見学30分、映像30分、屋外見学30分（実際の大きさを体感できます。） （ガイド案内は事前確認が必要です。）
料金	見学無料（県立装飾古墳館は有料）
駐車場・トイレ	県立装飾古墳館（駐車場あり、トイレあり）
時代	原始（弥生・古墳）古墳時代中期から後期にかけての古墳群
参考URL	<a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264133556536/files/yamagabunkazai.pdf">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264133556536/files/yamagabunkazai.pdf</a> <a href="https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/exhibition/iwahara.html">https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/exhibition/iwahara.html</a>
出典	『山鹿市の指定文化財』20～21頁 <a href="https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/">https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/</a> 『山鹿のてびき』34頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定史跡。（昭和33年指定）</li> <li>・前方後円墳の双子塚を主墳として、周辺の下原・寒原・馬不向などの円墳を総称して岩原古墳群といいます。主墳の双子塚古墳は、深さ1m、幅約10mの周溝をもつ前方後円墳で、ほぼ完全な原形を保ち、雄大で優美な姿を残しています。全長107m、後円部直径57m。</li> <li>・周辺に広がる陪塚も直径30m、高さ4m余りの円墳で、ほぼ原形を保っています。いずれも古墳時代中期のもので、付近一帯を治めた豪族の墳墓と考えられます。</li> <li>・岩原台地の北側から南西側にかけて崖面に6群、131基の長岩横穴群があります。</li> <li>・熊本県を代表する古墳群の一つ。熊本県立風土記の丘として、昭和56年の確認調査を経て、平成2年から6年に整備がなされています。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

名称	鞠智城跡（きくちじょうあと）
住所	〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原
電話番号	【問い合わせ・申し込みは温故創生館 0968-48-3178】 9:30～17:15（年末年始・月曜など休館）
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/otaB7dpTBzPYHqtO9">https://goo.gl/maps/otaB7dpTBzPYHqtO9</a> 
営業時間 見学所要時間 （目安）	所要時間：鞠智城跡と温故創生館内見学含め 60分から90分 鞠智城散策ルート（40分～90分） 温故創生館内見学のみ（約30分間） （見学予定日の2週間前までに要予約・無料。ガイド時間は1時間以上が必要です。） （芝生の広場では、お弁当を食べることもできます。）
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり、トイレあり
時代	7世紀後半（約1300年前）
参考URL	<a href="https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/kikuchijo/index.html">https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/kikuchijo/index.html</a>
出典	『山鹿市の指定文化財』22頁 <a href="https://bunka.nii.ac.jp/">https://bunka.nii.ac.jp/</a> 『山鹿のてびき』49頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定史跡（平成16年指定）</li> <li>・有明海に注ぐ菊池川の河口から北東に約2.7km内陸に入った菊池川中流域、鹿本郡菊鹿町米原にある標高160m前後の丘陵地に位置し、北は福岡県境に連なる山々を望み、南は菊池川により形成された平野が広がっています。</li> <li>・天智二（六六三）年、朝鮮半島における白村江の戦いに敗れた大和朝廷が唐・新羅と対峙しながら、国を防衛するために築いた朝鮮式山城です。</li> <li>・東アジア情勢が緊迫の度を増した7世紀中葉以降に、大宰府防衛のため大和朝廷によって築かれた朝鮮式山城のひとつと考えられ、『続日本紀』文武天皇2年（698）の「大宰府をして、大野、基肄、鞠智の三城を繕治せしむ」とある修繕記事を初見とし、降って『日本文徳天皇実録』天安2年（858）に「菊池城院兵庫の鼓自ら鳴る」「菊池城の不動倉十一宇火」、『日本三代実録』元慶3年（879）に「菊池城院の兵庫の戸自ら鳴る」の怪異記事及び火災記事が国史に散見されます。</li> <li>・城跡は菊鹿町米原の長者原地区を中心とする総延長約3.5kmの土塁線や急峻な崖線で囲まれた、南北約1.2km、東西約1km、面積約64haの規模を有する。昭和42年度から始められた発掘調査によって、現在までに掘立柱建物・礎石建物、鼓楼ともいわれている八角形建物跡2棟、貯水池跡、貯木場跡等の遺構のほか、南側の崖面に3箇所（深迫・堀切・池の尾）で門跡が確認されています。</li> <li>・鞠智城は、熊本県によって昭和42年から現在にわたって発掘調査が行われてきており、数多くの貴重な遺構や出土品が見つかりました。</li> <li>・主な出土品として、百濟様式の軒丸瓦、焼けて炭化した大量の靱、木製の鋤、鍬の柄、斧の柄などがあり、特に貯水池跡からは木簡や百濟系銅造菩薩立像など貴重な遺物が発見されました。</li> </ul>

# 見学お役立ちシート

名称	豊前街道
住所	〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1776
電話番号	
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/cgntD9wno3MbMC9g8">https://goo.gl/maps/cgntD9wno3MbMC9g8</a>
営業時間 見学所要時間 (目安)	(参考情報) 米米惣門ツアー【問い合わせ・申し込みは山鹿温泉観光協会】 0968-43-2952 (毎週水曜、年末年始は休み) 所要時間：1時間 (希望日の前日までの申し込みが必要です。)
料金	ツアーの案内料 500円
駐車場・トイレ	豊前街道駐車場 (トイレなし)、惣門公園 (トイレあり)
時代	近現代
参考URL	
出典	<a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264133556536/files/yamagabunkazai.pdf">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264133556536/files/yamagabunkazai.pdf</a> 『山鹿のてびき』67～71頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世 (江戸時代) の山鹿は、湯町と呼ばれた旧山鹿町を中心に発展してきた歴史があります。湯町は山鹿郡の政治、経済、文化の中心地として、宿場町、温泉町として繁栄してきました。</li> <li>・江戸時代中期になると菊池川の水運を利用して、高瀬町 (玉名) に物資を輸送する中継点、船着き場として重要な役割を果たすようになりました。特に米どころ菊池、山鹿地方の米穀は関西で寿司米として重用され、高瀬に運ばれたあと、大きな船に積み替えて大浜の海から長崎を回って阪神地方に輸出されました。</li> <li>・路地のことを山鹿地方では小路と呼んでいます。旧豊前街道、菊池往還などには多くの小路があり、生活道路として使われてきました。現在もその多くが残っており、小路をたどっていくと古い山鹿の歴史や史跡にであうことができます。「関口」は関所があった所に行く道、「菊池小路」は菊池に行く往還に向う道など様々な歴史を伝えています。</li> <li>・元広の豊前街道里数木跡は、近世の一里塚。熊本市新町の元標から五里の地点にあります。榎は枯れ、塚のみが残存します。</li> <li>・惣門は現在の山鹿の下町の地域を指します。菊池川に南面し、橋が架り、明治時代末までは船着き場があります。豊前街道と菊池川が交わる水陸交通の要衝の地でした。回船問屋や米問屋、酒蔵などが軒を連ね賑わっていました。当初は東惣門、西惣門でしたが、惣門だけとなり、現在は下町という町名です。江戸時代の旧山鹿町 (湯町) の南の玄関口だった構え門が復元されています。</li> <li>・米米惣門ツアーは、豊前街道に残る酒蔵や味噌蔵、街並みを紹介するツアーです。地元の商店主によるガイドで知らなかった山鹿の歴史、文化に触れることができます。</li> </ul>

# 見学お役立ちシート

名称	隈部氏館跡
住所	〒861-0404 熊本県山鹿市菊鹿町上永野
電話番号	山鹿市教育委員会社会教育課 0968-43-1651
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/6ftbMoLEb5uJEgyn8">https://goo.gl/maps/6ftbMoLEb5uJEgyn8</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり、トイレあり
時代	戦国時代 16世紀代
参考URL	<a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264125462844/">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264125462844/</a> <a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1400116794221/files/kumabe02.pdf">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1400116794221/files/kumabe02.pdf</a> <a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1400116794221/files/kumabe01.pdf">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1400116794221/files/kumabe01.pdf</a>
出典	『山鹿市の指定文化財』42頁 『山鹿市のでびき』61頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定史跡（平成21年指定）</li> <li>・標高345mほどの山腹にあります。</li> <li>・戦国時代の館跡。山腹に礎石・庭園・土塁・石塁・堀切等の遺構が大変よく残っています。一帯は公園として整備され、当時の遺構が随所に見られるとともに、季節に応じた自然の変化が感じられる場所にもなっています。</li> <li>・城主は、肥後国衆一揆の中心人物でもある隈部親永です。館跡は、中世、肥後国の有力国人であった隈部氏の16世紀代の居館跡です。筑後・豊後の国境にほど近い八方ヶ岳山系の南西側山腹、山鹿市菊鹿町上永野の標高340m程の地点に所在しており、天正15年（1587）、肥後国主の佐々成政の支配に反旗を翻した隈部親永が隈府城に移るまで本拠としたのが隈部氏館です。</li> <li>・主郭を中心に、裏側に堀切2条、西側斜面に小段群、館正面側の南西縁下に大規模な堀切を、館正面に二つの区画を配する。入り口部に石積みの枳形虎口(ますがたこぐち)を設ける主郭では、礎石建物3棟、雨落溝(あまおちみぞ)、炉跡と思われる環状の石組、庭園遺構等が見つかりました。見つかった建物はそれぞれ主殿、庭園を伴う会所、蔵や台所の建物と推測されます。庭園遺構は、遠くの山並みを背景に、滝石組(たきいしぐみ)最上部に据えられた尖頭型(せんとうがた)の立石(りっせき)を起点として、背後の丘が南へ下っていく地形に応じるように、順次高さを低くしながら要所に石を立てる構成です。</li> <li>・隈部親永の銅造が、平成23年11月に菊鹿町のあんずの丘公園の高台に建立されました。高さは台座合わせて10mの堂々たる武将姿です。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

名称	方保田東原遺跡（かとうだひがしばるいせき）
住所	〒861-0382 熊本県山鹿市方保田110-1
電話番号	【問い合わせ・申し込みは出土文化材管理センター 0968-46-5512】9:00～16:30（土・日・祝日・年末年始は休館）
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/hEYScfRrZ1K8rJcD8">https://goo.gl/maps/hEYScfRrZ1K8rJcD8</a> 
営業時間 見学所要時間 （目安）	所要時間：出土文化材管理センターと方保田東原遺跡で30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	出土文化材管理センター（駐車場あり、トイレあり）大型バス不可
時代	原始（弥生時代後期から古墳時代前期）
参考URL	<a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264126266698/index.html">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264126266698/index.html</a>
出典	『山鹿市の指定文化財』18頁 『山鹿市のおてびき』54～55頁 文化遺産オンライン（ <a href="https://bunka.nii.ac.jp/">https://bunka.nii.ac.jp/</a> ）山鹿市ホームページ
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定史跡（昭和60年指定）</li> <li>・方保田東原遺跡は、熊本県の北部、山鹿市中心部から東へ4kmの菊池川中流域の標高35mの台地上にあります。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡であったことがわかりました。昭和55年に起こった宅地造成計画に伴い、山鹿市教育委員会が確認調査を実施したところ、少なくとも東西330m、南北300mに及ぶ環濠集落跡であることが判明しました。</li> <li>・調査面積は遺跡全体の10%未満ですが、350軒を超える住居跡や幅9mの大溝など溝跡が約20条、その他甕棺墓や木棺墓などの墓跡も30数基見つかっています。なかでも弥生時代の権力の象徴とされている青銅製品が、県内で最も多く見つかっているのがこの遺跡の特徴です。青銅製品のうち巴形銅器は直径12.3mで、全国で最大級のものです。また、鏡は破片を合わせると計10点出土していて、一集落の出土としては全国屈指の量を誇っています。菊池川沿いの山鹿一帯を治めた中心勢力であったと考えられます。</li> <li>・主要な出土遺物952点が国重要文化財に指定されています。（土器、土製品429点 金属製品371点 石器、石製品54点 貝輪2点 ガラス玉96点）</li> <li>・一通りの鉄器が揃っており、この集落で鉄器化がかなり進んでいることを示します。</li> <li>・石包丁型鉄器（長さ11.7cm）は現在のところこの遺跡だけで出土している希少な資料です。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

名称	山鹿市出土文化財管理センター
住所	〒861-0382 熊本県山鹿市方保田128
電話番号	0968-46-5512
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/2CSY9JLSmiT4sLD39">https://goo.gl/maps/2CSY9JLSmiT4sLD39</a>
営業時間 見学所要時間 (目安)	<p>【出土文化財管理センター】9:00～16:30</p> <p>所要時間：出土文化財管理センターと方保田東原遺跡 30分程度 ※時間は目安です</p>
料金	見学無料
駐車場・トイレ	<p>駐車場あり</p> <p>トイレあり</p>
時代	原始（弥生・古墳）
参考URL	『山鹿市』 <a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264131981017/index.html">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264131981017/index.html</a>
出典	<p>出土文化財管理センターパンフレット</p> <p>『山鹿のてびき』56頁</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出土文化財管理センターは山鹿市の史跡の管理と出土文化財の収集、保存、展示及び埋蔵文化財の調査活動の拠点として活用されています。</li> <li>・発掘調査で得られた出土品を整理して、報告書を刊行したり、遺物の一部は展示されています。</li> <li>・学校などの体験学習や生涯学習での活用もされています。</li> <li>・センターに隣接する国史跡方保田東原遺跡の公園で、埋蔵文化財に触れるイベントも開催されます。</li> <li>・市内で発掘された土器や石器などコンテナ約3000箱を超える出土品を収蔵しており、見学することもできます。</li> <li>・方保田東原遺跡の出土品は市立博物館と出土文化財管理センターに収蔵・展示されています。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

名称	山鹿市立博物館
住所	〒861-0541 熊本県山鹿市鍋田2085
電話番号	0968-43-1145
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/NTcWNNjTaA5534n8">https://goo.gl/maps/NTcWNNjTaA5534n8</a> 
営業時間	【山鹿市立博物館】9:30～17:15（入館は16:45まで）9:00～17:00（入館は16:30まで）
見学所要時間 （目安）	所要時間：常設展20分、企画展20分程度 ※時間は目安です オブサン古墳までの距離600m（ボランティアガイドは事前予約が必要です。）
料金	一般・大学生270円／高校生以下70円（山鹿市内の小中学生は無料） 団体（15名様以上）一般・大学生210円／高校生以下50円
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレあり
時代	原始（弥生・古墳）、歴史、民俗など
参考URL	<a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264127825069/">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264127825069/</a>
出典	山鹿市立博物館パンフレット 『山鹿市』（ <a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264127825069/">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264127825069/</a> ）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿市立博物館は、昭和53年に県内で2番目に開館した博物館です。</li> <li>・菊池川流域の考古・歴史・民族資料を中心に約3000点を収蔵・展示しています。方保田東原遺跡から出土した全国に唯一の石包丁形鉄器や、30数例しかない巴形銅器など大変貴重な資料がみどころです。</li> <li>・巴形銅器は、七つの脚をもつ、不思議な形をしています。この銅器は、南海産のスズ具にヒントを得たものともいわれ、古墳時代には盾の飾りとして使われていました。</li> <li>・石包丁形鉄器は、昭和59年（1984）大道農協建設に伴う調査によりわが国で初めて出土しました。これまで石包丁から手鎌といった収穫具の変遷が考えられていましたが、この資料によって、石包丁形鉄器の存在が明らかになりました。平成10年（1998）の調査で2例目が出土しました。（国の重要文化財）</li> <li>・博物館周辺は歴史公園「肥後古代の森」として整備されていて、装飾古墳として有名な史跡チブサン・オブサン古墳まで徒歩15分の「古代への道」が続いています。</li> <li>・そのほか江戸時代の民家は、天保11年（1840）に建てられた茅葺民家で、昭和54年に移築したものです。内部には、民族資料の展示もあります。また、全国第2位の規模の用水橋（石橋）である大坪橋は、江戸時代末期に吉田川に架設、河川改修のため博物館の隣接地に移設復原されました。長さ23.2mで、県内の用水路としては通潤橋（国指定）に次ぐ規模です。</li> </ul>



## 見学お役立ちシート

名称	熊本県立装飾古墳館
住所	〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原3085
電話番号	0968-36-2151
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/63AwcR3HRErU8dew6">https://goo.gl/maps/63AwcR3HRErU8dew6</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	【県立装飾古墳館】9:30～17:15 (入館は午後16:45まで) 休館日：毎週月曜日(当日が祝日の場合はその翌日)、年末・年始(12/25～1/4) 所要時間：装飾古墳館見学30分、映画30分、屋外見学30分 ※時間は目安です (実際の大きさを体感できます。/ガイド案内は事前に確認をお願いします。)
料金	一般：430円(団体[20人以上]：300円/1人) 大学生：260円(団体：180円/1人) 幼児・小・中・高生：無料 *障害者手帳をお持ちの方は無料です。
駐車場・トイレ	駐車場あり、トイレあり
時代	原始(弥生・古墳)
参考URL	<a href="https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/">https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/</a>
出典	『熊本県』( <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/115/4296.html">https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/115/4296.html</a> ) 『県立装飾古墳館』 <a href="https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/">https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/</a> 県立装飾古墳館パンフレット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・装飾古墳館は出土した豊富な資料を実物や模型展示、映像等によって紹介する全国初の古墳専門の博物館です。実際の古墳が点在する場所に建てられたこの建物は、前方後円墳を模し、現代の古墳をイメージしています。この建物は、世界的に有名な建築家の安藤忠雄氏の設計によるものです。屋外スロープを登ると展望所へと続きます。</li> <li>・装飾古墳館展望所の前にある芝の広がる古墳群は、大小合わせて13基の古墳が集まる国史跡岩原古墳群です。奥の大きな古墳は、前方後円墳の岩原双子塚古墳で、全長107m、菊池川中流域では最大級を誇り、この一帯を治めていた人の墓だと考えられています。その周りには丸い丘も古墳です。上から見ると円形をしているので円墳といいます。円墳はこの双子塚古墳の主の一族や家来の墓と考えられています。</li> <li>・スロープの横にある2つの円は、装飾古墳館を建設する際に発掘された古墳を実物大に再現したものです。この下に本物が埋め戻されています。発見された時、すでに盛り土は削られ、石の棺とそれを囲むドーナツの溝だけになっていました。その左側には2つの石棺があります。こちらも古墳館建設の際に発掘されたものですが、取り囲む円い溝がありません。</li> <li>・今から1500年前、この台地には前方後円墳のとそれを囲むように広がる一族や家来の古墳、さらに周囲には墳丘を持たない庶民の墓が造られていたようです。</li> <li>・国が提唱した「風土記の丘構想」に基づき、装飾古墳の保護・活用、そして研究のための施設として設置されました。館内には普段見ることのできない装飾古墳の内部を忠実に再現展示されており、先土器時代(旧石器時代)から中世までの出土遺物も展示しています。屋外には「はにわ公園」、古墳の間をウォーキングして楽しめる園路、台地の壁面には岩原横穴墓群があります。また、勾玉づくりをはじめとする古代体験や、学芸員が出向いて行う移動体験など、講座やイベントが楽しめる体験参加型の博物館でもあります。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

名称	温故創生館（おんこそうせいかん）
住所	〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原443-1
電話番号	0968-48-3178
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/F8GxUuCcvDKUgvXW7">https://goo.gl/maps/F8GxUuCcvDKUgvXW7</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	<p>【温故創生館】9:30～17:15（入館は16:45まで）</p> <p>休館日：毎週月曜日（当日が祝日の場合はその翌日）、年末・年始（12/25～1/4）</p> <p>所要時間：鞠智城跡と温故創生館内見学含め 60分から90分 ※時間は目安です</p> <p>鞠智城散策ルート（40分～90分）・温故創生館内見学のみ（約30分）</p> <p>（芝生の広場では、お弁当を食べることもできます。）</p> <p>※説明ボランティアガイドによる案内</p> <p>（見学予定日の2週間前までに要予約・無料。ガイド時間は1時間以上が必要です。）</p>
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレあり
時代	原始（弥生・古墳）
参考URL	<a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264127825069/">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1264127825069/</a>
出典	温故創生館パンフレット 『熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館』 (https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/onkosouseikan/index.html)
	<p>・鞠智城が築かれた時代やその役割、城の構造について、展示と映像で学べる施設です。</p> <p>ガイドダンス施設である温故創生館では、展示や映像により鞠智城の歴史や構造について詳しく学ぶことができます。</p> <p>・鞠智城は7世紀後半（約1350年前）に、大和政権が築いた古代山城663年の「白村江（はくすきのえ）の戦い」に敗れた大和政権が外敵からの守りを固めるために築いた城の1つで、全国有数の重要遺跡として平成16年2月27日に国史跡に指定されています。周囲の長さは3.5km、面積55haの広大な歴史公園内には八角形鼓楼、米倉、兵舎/板倉など当時の建物が復元されています。園内を散策できる園路や素晴らしい風景を一望できる展望所もあり古代のロマンにひたることができます。</p>

# 見学お役立ちシート

名称	八千代座
住所	〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1499
電話番号	0968-44-4004
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/N6JDctxvxkE7zuVm7">https://goo.gl/maps/N6JDctxvxkE7zuVm7</a>
営業時間	【八千代座】9:00～18:00（最終受付17:30） ※公演などで見学できない日があるため、施設に確認してください
見学所要時間 （目安）	所要時間 夢小蔵：約15分、八千代座見学：約30分 ※時間は目安です （八千代座の中には靴を脱いで入ります）
料金	（共通入館料） 一般 730円 小学生・中学生 370円
時代	近現代（明治43年）
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレあり
参考URL	<a href="https://yamaga.site/?page_id=2">https://yamaga.site/?page_id=2</a>
出典	『山鹿市の指定文化財』10頁、文化庁国指定文化財データベース（ <a href="https://kunishitei.bunka.go.jp/">https://kunishitei.bunka.go.jp/</a> ） 『山鹿のてびき 山鹿観光事典』72～77頁
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化財（建造物）（昭和63年指定）</li> <li>・桁行35.3m、梁間30.6m、二階建、入母屋造、妻入、正面庇、庇上両端二階付、入母屋造、客席・左右両面二段庇、舞台及び楽屋廻り三面下屋付、奈落を含む、棧瓦葺、便所及び渡廊下附属。</li> <li>・山鹿市の町なかにある劇場で、劇場建設組合を設立し、資金を集めて建築されました。建物は規模の大きな二階建て、内外とも和風の意匠によっていますが、小屋は木造の洋小屋となっています。</li> <li>・廻り舞台、奈落、客席、楽屋など当初の姿をよく残しています。また建設当時の文書類も受け継がれており、建築事情を知ることができます。</li> <li>・明治時代の山鹿は、熊本県北の商工業の中心的都市でした。水陸交通の要衝で物資の集散地、また、県内屈指の温泉場として繁栄していました。商工業種では、養蚕、製糸が有名で、生産量は県内で上位を占めていました。</li> <li>・八千代座を設計した木村亀太郎は、安政6年（1859）山鹿大橋近くの回船問屋の長男として生まれています。亀太郎は、設計した主なものとしては、鹿本鉄道山鹿駅本社、山鹿尋常高等小学校校舎、薬師堂、熊本市の「東雲座」隈町（現在の菊池市）の「桜座」などがあります。八千代座を設計したとき、亀太郎は50歳でした。設計にあたっては、東京、大阪、下関、長崎、熊本などの全国の芝居小屋を丹念に見学し、また、上海にも渡って建築の勉強に励みました。特に熊本市の大和座と東京の歌舞伎座に八千代座の原型を求め、大和座には大工棟梁の泉仁平と何度も足を運んでいます。</li> <li>・八千代座を象徴するものに天井広告画があります。天井と欄間に広告絵を張り、広告収入を得ることを思いついたのは亀太郎でした。看板屋に発注する下絵も描いており、平成の大修理では現存する32枚の下絵を基に建設当初の広告画が復原されています。</li> <li>・八千代座の名前の由来は記述がないためわかりませんが、千代に八千代に長く続いてほしいという願いをこめて「八千代座」と名付けられたのではないかと考えられます。</li> </ul>

# 見学お役立ちシート

	清浦記念館（きょうら きねんかん）
住所	〒861-0331 熊本県山鹿市鹿本町来民1000-2
電話番号	0968-46-5127
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/KUIlifQybHaQJMx68">https://goo.gl/maps/KUIlifQybHaQJMx68</a> 
営業時間 見学所要時間 （目安）	9:00～17:00（月曜、年末年始など休館） 所要時間 約30分
料金	一般・大学生270円 高校生以下70円
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレあり
時代	近現代
参考URL	<a href="https://yamaga.site/?page_id=2">https://yamaga.site/?page_id=2</a>
出典	『山鹿市の指定文化財』10頁、『山鹿のてびき』90頁、『やまがSTYLE』10頁 山鹿探訪ナビサイト（ <a href="https://yamaga-tanbou.jp/spot/1390/">https://yamaga-tanbou.jp/spot/1390/</a> ） <a href="https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1281667313180/files/001.PDF">https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1281667313180/files/001.PDF</a> <a href="https://www.kantei.go.jp/jp/rekidainaikaku/023.html">https://www.kantei.go.jp/jp/rekidainaikaku/023.html</a>
	<p>・山鹿市に生を受け、熊本県初の内閣総理大臣となった清浦奎吾伯の業績を顕彰し後世に伝えるため平成4年に建設されました。音声・映像で綴る清浦伯の生い立ちや立志の道についての説明のほか、清浦伯に関する貴重な遺品や書物が展示・保存されています。記念館の周りには清浦の生家やお墓もあります。清浦伯の命日である毎年11月5日には墓前祭が執り行われ、清浦伯の偉業を称えるとともに冥福が祈られています。</p> <p>・第23代内閣総理大臣 清浦奎吾（在職日数 157日）</p> <p>・清浦奎吾は現在の鹿本町来民の明照寺住職・大久保了恩の五男としてこの地に生まれました。日田の私塾・咸宜園で学んだ奎吾は上京して官僚となり、司法大臣や農商務大臣、内務大臣などを歴任し、大正13年（1924）内閣総理大臣に就任しました。</p> <p>・四十七歳で松方内閣の司法大臣、その後も山県・桂各内閣の司法大臣を歴任。当時制定された刑法・民法等はほとんど清浦奎吾がつくったもので「我が国警察界の恩人」と言われています。</p> <p>・農商務大臣時代は、耕地整理と土地改良事業を推進し、林業試験場を創設。枢密院議長を経て、大正一三年遂に内閣総理大臣に。「清浦（奎堂）文庫」の設立、「清浦賞」の設立など故郷の後進の育成にも貢献しました。高風清節の士。従一位大勲位受章。</p> <p>・清浦奎吾は、常に「四恩」を忘れることはありませんでした。その教えとは、一つ「親の恩」二つ「先輩の恩」三つ「朋友・同僚の恩」四つ「時世の恩」これらは、すべて奎吾自身を育ててくれた人々への感謝を表したものです。</p>

# 見学お役立ちシート

	国衆一揆（くにしゅういっき） 【城村城（じょうむらじょう）】
住所	城村城跡：〒861-0554 熊本県山鹿市城1017
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/cwuDm7P3KdDGnDpB6">https://goo.gl/maps/cwuDm7P3KdDGnDpB6</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場なし トイレなし
時代	中世
参考URL	ふるさと寺子屋 肥後国衆一揆：https://kumamoto.guide/look/terakoya/043.html
出典	山鹿市の中世城と肥後国衆一揆 小南美雄先生講演録 32～33頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隈部親永が居城である菊池城を佐々成政から攻められた際に、立てこもった城です。当時は息子親泰の居城でした。</li> <li>・佐々成政から付近に付城を造られながらも、果敢に抵抗しましたが、豊臣秀吉の圧倒的な援軍により最後は降伏、停戦開城されました。</li> <li>・所在地は大字城で、城跡は「城」という字名を残す集落に位置します。</li> <li>・遺構としては、主郭の南側に一条の空堀を残す他は、顕著な遺構は認められません。城跡は丘陵末端部に開けており、地形そのものが一つの城をなしています。城の形態としては、平城の類であったろうと思われます。</li> <li>・城山の北東側の崖には熊本県指定文化財の城横穴群があります。城跡は、この台地の上にあって、今は畑になっており、山鹿市の指定史跡です。</li> <li>・現在、城跡の中心地と伝えられる場所には城跡碑が建立されています。</li> </ul>

# 見学お役立ちシート

	国衆一揆（くにしゅういっき） 【西付城（にしつけじろ）】
住所	西付城跡：〒861-0554 熊本県山鹿市城
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/cwuDm7P3KdDGnDpB6">https://goo.gl/maps/cwuDm7P3KdDGnDpB6</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場なし トイレなし
時代	中世
参考URL	ふるさと寺子屋 肥後国衆一揆：https://kumamoto.guide/look/terakoya/043.html
出典	山鹿市の中世城と肥後国衆一揆 小南美雄先生講演録 30～31頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国衆一揆時、城村城を佐々成政が攻めている際に自城の隈本城が攻められたため、軍を引き返す際に、城村城の兵が外に出られないように造った付城です。東付城も同様にして造られました。</li> <li>・所在地は大字城で、城跡は「松ノ木原」の丘陵地内にあつて、「城山」といわれる微高地部分に位置します。</li> <li>・東付城と同様に、天正15年に佐々成政が城村城を攻めたときに、ここに付城を築き、180名余の番兵を置きました。城跡は長方形の一区画をなしており、中央部に「城床」と呼ばれる正方形の高台が存在します。以前はこれより東側にも同様の形態をなす高台が存在していましたが、昭和52年に削平されています。両者の間には空堀もありました。一方、城山については、南側の斜面に空堀が観察されています。</li> <li>・この高台とその周りを調査した結果、内堀、外堀と、二重に取り囲んだ堀の跡が発見されました。大人がすっぽりと隠れてしまうほどの深さです。</li> <li>・市指定史跡であり、西付城跡の碑があります。</li> <li>・周囲は現在、藪や畑になっており、雨天時には足元に注意が必要です。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

	湯の口溜め池（ゆのくちためいけ）・遠山神社（とおやま じんじゃ）
住所	〒861-0523 熊本県山鹿市蒲生 蒲生池
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/cSSxtbf7h4qukjWT6">https://goo.gl/maps/cSSxtbf7h4qukjWT6</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレなし
時代	近世
参考URL	>
出典	遠山弥二兵衛と湯の口溜め池 笠聡一郎先生講演録
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湯の口溜め池は遠山弥二兵衛（トオヤマ ヤジベエ）が中心となって築造した、江戸時代として県下最大級の人工の灌漑溜池です。遠山神社と隣り合う位置関係にあります。</li> <li>・直接降り注ぐ雨水をためているだけでなく、ダムと同じように川からの水をせき止めることができるのが特徴です。上内田川から、約3キロの用水路（1キロはくり抜かれたトンネル）で水を取り入れています。この用水路では年一回、11月上旬に、地域の方による清掃活動が行われています。</li> <li>・溜め池には1年中水が溜まっているわけではありません。灌漑期が終わる11月上旬ごろには水を抜くため、底が見えるようになります。11月下旬から翌年4月にかけて、水が溜まっていく様子を見ることができます。</li> <li>・遠山神社は、遠山弥二兵衛没後に、彼の功績を称えて、神として祀った神社です。毎年4月4日に彼の功績を称える「遠山祭」が営まれ、神事が行われます。遠山祭では遠山氏の子孫の方をお招きし、彼の功績を偲びながら地域の方々と親睦を深めています。</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

	西南戦争（せいなんせんそう）・薩軍餂肥隊奮戦之地（さつぐん おびたい ふんせんのみち）
住所	〒861-0541 熊本県山鹿市鍋田1918
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/R6mrgFzkmGi8wE817">https://goo.gl/maps/R6mrgFzkmGi8wE817</a> 
営業時間 見学所要時間 （目安）	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場なし トイレなし
時代	近現代
参考URL	>
出典	史跡西南之役薩軍餂肥隊奮戦之地の碑文、西南の役山鹿口の戦い（財）山鹿市地域振興公社 42頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿市立博物館から南へ300メートルほど離れた場所にあり、「史跡西南之役薩軍餂肥隊奮戦之地の碑」が目印です。</li> <li>・西南の役（西南戦争）山鹿口の戦いで鍋田地域は、激戦地の一つでした。前方の墓地域と併せて「年の神墓地」と呼ばれ、明治10年3月12日と15日の両日の戦いでは、官軍はこの陣地の争奪に全力を尽くしました。</li> <li>・官軍は正面の八幡林の高台に砲台をすえて、ここをねらい撃ち、歩兵中隊長の総攻撃で12日には午前中二度にわたって陣地の一部を奪いましたが、餂肥隊は三番小隊長米良一穂が先頭に立って、抜刀隊を率いて切り込み、直ちにそれを奪い返しました。</li> <li>・午後も数度にわたって争奪戦が繰り返されましたが、餂肥隊が守り抜きました。15日も同様に両軍の死闘が繰り返されましたが、餂肥隊の奮戦によって死守されました。そのため官軍は東鍋田台地の一部も占領することはできませんでした。</li> <li>・その間の戦いで、両軍の死傷者は数百名におよびました。古い墓石に残る弾痕の跡が戦いの激しさを物語っています。</li> </ul> <p>※この文の内容は「奮戦之地の碑」によります。</p>



# 見学お役立ちシート

	石橋（いしばし）【日渡洞口橋（ひわたしとうぐうばし）】
住所	〒861-0406 熊本県山鹿市菊鹿町下内田 6 6 3
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/nyJKL9BYhxzfBSTn9">https://goo.gl/maps/nyJKL9BYhxzfBSTn9</a> 
営業時間 見学所要時間 （目安）	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレなし
時代	近世
参考URL	近世以前の土木・産業遺産 <a href="https://www.kinsei-izen.com/">https://www.kinsei-izen.com/</a>
出典	平山橋案内看板
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この橋は、安永3年（1774）下内田の石工、仁平が架けたもので、熊本県内最古の石橋と言われています。この石橋の架け方はリブアーチ式と呼ばれる珍しい方法で、細長い石を長軸方向に並べつなげて架けていくものです。天明2年(1782)仁平が阿蘇郡南阿蘇村（旧長陽村）に黒川橋（橋場橋）を架けましたが、その試作として造ったものと考えられています。</li> <li>・橋はもともと現在地から20メートル東の地点の日渡地区を流れる太田川に架かっていたのですが、平成5年6月18日の洪水により流されてしまいました。その後、平成6年に地元日渡地区の協力を得てこの場所に復元されました。</li> <li>・架橋年：安永3年（1774）、規模：長さ6m、幅員0.58m、スパン（アーチの直径）5.2m、石工-仁平</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

	石橋（いしばし）【大坪橋（おおつぼし）】
住所	〒861-0541 熊本県山鹿市鍋田
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/aYAB5bfKYxJCVH4N8">https://goo.gl/maps/aYAB5bfKYxJCVH4N8</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	<p>見学自由 所要時間：20～30分程度</p>
料金	無料
駐車場・トイレ	<p>駐車場あり トイレなし</p>
時代	近世
参考URL	>
出典	大坪橋案内碑、肥後の石工と山鹿・鹿本の眼鏡橋 桑原憲彰先生講演録54頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この眼鏡橋（アーチ式石橋）は幕末の惣庄屋・福田春蔵が慶応元年頃(1865年頃)宗方・中村地区の住民が水利に乏しく、干害に苦しむのを見て、寺島井手の用水を引くため地元の人々とともに苦心して、吉田川に架橋されたものです。</li> <li>・この橋は山都町にある通潤橋につぐ全国2位の規模を誇る用水橋であり、二連橋としては県下約170基の石橋のうち第11位に数えられています。</li> <li>・吉田川河川改修工事によってやむなく撤去せざるを得なくなったものの、先人の偉業を偲ぶためぜひ保存したいとの強い要望があり、県の協力を得て復元移築されたものです。</li> <li>・昭和59年（1984）に山鹿市立博物館前に移築されました。</li> <li>・架橋年：1860～1870年の間、規模：長さ23.2m、幅員2.42m、スパン（アーチの直径）8.9m・9.05m、拱矢（きょうし：アーチの頂上から基部までの高さ）4.2m(右)・4.5m(左)、石工不明</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

	石橋（いしばし）【湯町橋（ゆまちばし）】
住所	〒861-0552 熊本県山鹿市杉1613
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/4FdV1V62oVdzqs259">https://goo.gl/maps/4FdV1V62oVdzqs259</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレあり
時代	近世
参考URL	>
出典	湯町橋案内碑、肥後の石工と山鹿・鹿本の眼鏡橋 桑原憲彰先生講演録59頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湯町橋は元は、豊前街道が吉田川を渡る山鹿口に架けられていたもので、昭和49年（1974）河川改修に伴い、日輪寺境内に移築されました。楔石（アーチの頂上の石）に銘文が刻まれており、その銘文から文化11年（1814）に完成した橋で、鍋田村（現山鹿市鍋田）の石工、吉兵衛らにより造られたことがわかります。</li> <li>・石は鍋田で採れる阿蘇凝灰岩を使用しており、地元の石工が地元の石材を利用して架けた橋です。</li> <li>・アーチ部分には長さの異なる石を2種類用いて組んであります。</li> <li>・昭和55年(1980)7月4日に、熊本県重要文化財に指定されました。</li> <li>・架橋年：文化11年(1814)、解体前の 規模：長さ17.7m、幅員4.8m、スパン（アーチの直径）6.5m、拱矢（きょうし：アーチの頂上から基部までの高さ）4.0m、石工 鍋田の吉兵衛・右衛門・甚吉・武右エ門</li> </ul>

# 見学お役立ちシート

	石橋（いしばし）【平山橋（ひらやまばし）】
住所	〒861-0556 熊本県山鹿市平山
電話番号	>
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/uGqcvwM2ii42tj4o7">https://goo.gl/maps/uGqcvwM2ii42tj4o7</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	見学自由 所要時間：20～30分程度
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレなし
時代	近世
参考URL	>
出典	平山橋案内看板、肥後の石工と山鹿・鹿本の眼鏡橋 桑原憲彰先生講演録57頁
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代末期の文久元年（1861）に造られたと言われるアーチ式石橋で、元は現在地から南東に1キロメートルほど離れた岩村川に架けられていました。</li> <li>・明治10年（1877）3度にわたって平山周辺は西南戦争の戦場となっています。同年3月3日、薩軍が南関の官軍本営を攻撃するため平山地域を北上する際にはこの橋を渡っていったものと考えられます。</li> <li>・その後、橋は大正3年（1914）県道（和仁山鹿線）の開通に伴い約2.4メートル拡幅されましたが、乗用車だけでなくバスや大型トラックが通れるほど頑丈で、この地域の暮らしと経済を支えてきました。</li> <li>・平成23年（2011）の県道拡幅工事に伴って、解体されました。今回、地元や石橋保存団体の方々からの強い要望を受けて、現在の場所に移築することとなりました。</li> <li>・現在は平山橋の輪石（アーチ石）として残されています。</li> <li>・架橋年 文久元年(1861) 解体前の規模：橋長 10.00m、幅員 4.90m（築造当初2.48m）、スパン（アーチの直径）6.34m、拱矢（きょうし：アーチの頂上から基部までの高さ）3.17m、石工 不明</li> </ul>

## 見学お役立ちシート

	康平寺（こうへいじ）
住所	〒861-0573 熊本県山鹿市鹿央町霜野 1 8 7 0 - 2
電話番号	0968-36-4030
地図URL	<a href="https://goo.gl/maps/wrnJymUsiJtrMn7f8">https://goo.gl/maps/wrnJymUsiJtrMn7f8</a> 
営業時間 見学所要時間 (目安)	<p>【康平寺】開館日：月曜日を除き毎日【開館時間】9:00~16:00  <b>現在は土曜日・日曜日のみ開館。11月中旬～12月上旬はイチョウの黄葉の見ごろのため、毎日公開。</b>  <b>詳しくは山鹿市ホームページにて（2022年12月現在）</b>          所要時間：30分～</p>
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレあり
時代	近世
参考URL	>
出典	山鹿探訪ナビ 康平寺 <a href="https://yamaga-tanbou.jp/spot/1310/">https://yamaga-tanbou.jp/spot/1310/</a>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霜野山延寿院康平寺は、熊本県山鹿市鹿央町霜野にある山岳密教寺院です。</li> <li>・平安時代に作られた地蔵菩薩立像（県指定重要文化財）など、約30体が展示されています。</li> <li>・例年11月中旬から下旬ごろにイチョウの黄葉が楽しめます。脇道から5分ほど上った場所から、見下ろすようにイチョウと康平寺のコラボレーションを見ることができ、絶景です。</li> <li>・地元の方々が、交代で境内の清掃・康平寺の案内を行っており、全国的にも希少な仏像群の事などを丁寧にガイドしてくれます。</li> </ul>